

こんなに
すごい!

今どき冷蔵庫

10年前冷蔵庫と最新冷蔵庫の機能比較表

要素		10年前の冷蔵庫 2006~07年度モデルを対象とする	最新冷蔵庫 2016~17年度モデルを対象とする
主流の容量		400L前後が主流	500L以上が主流で600L以上クラスも
鮮度保持	冷蔵室	冷風で乾燥した庫内	湿度を保持する工夫をしたタイプもあり
	野菜室	ラップ包装不要	ラップ包装不要・高湿保存、 栄養素アップのタイプも エチレングスを減らせる工夫がある
	冷凍室	急冷機能	急冷機能だけでなく、様々な冷凍保存機能
	特定低温室	チルドが主流	チルドや氷温、パシャルなど様々な 温度帯で生鮮食品の鮮度長持ち
使い勝手	製氷	自動製氷機能がほぼ定着	自動製氷機能は標準装備 洗える部品が多くなりより清潔に ミネラルウォーター使用可能 独立製氷室も標準化
	貯蔵室	引き出し式の冷凍室が定着	引き出し式冷凍室が標準も、 様々な形態とレイアウト 温度が切り替えられる 小部屋がついているタイプも
	収納性	大型化は進むけれど・・・ 収納する大きさや量は限られていた	食品の形態や使用状況に合わせて、 棚やポケットの位置を変更可能 ポケットや収納部の形状にも工夫がされている 大量収納でも、ドアの開け閉めは軽々!
デザイン	形態	片開きタイプが主流 6ドアがそろそろ定着	6ドアの観音開きタイプが主流 多様なレイアウトや形態が選べる
	外装	ステンレスタイプが主流	ガラスタイプが多くなってきている 高光沢ドア・柄・ストライプなど 高級家具並みの質感

※上記に記載した内容は各社冷蔵庫の仕様や搭載機能の一例の紹介です。全ての冷蔵庫に該当しているわけではありません。
お探しの冷蔵庫の仕様、搭載機能については、各社カタログ等にてご確認ください。



大容量冷蔵庫の選び方

ご家族の人数に合わせて容量をお選びください。

最新版だよ

【冷蔵庫 目安容量計算式】

$$\text{容量} = (\underbrace{70\text{L} \times \bigcirc}_{\text{ご家族人数}}) + (\underbrace{120\text{L} \sim 170\text{L}}_{\text{常備品容量}}) + \underbrace{100\text{L}}_{\text{予備スペース}}$$

例: 3人家族であれば430~480L、4人家族であれば500~550Lとなります。
設置スペースに余裕があれば、上記計算容量に、30~50L位多い容量帯の冷蔵庫を考えてもよいでしょう。

※2017年改定



ひえてる君

人と社会と技術の調和
JEMA
一般社団法人日本電機工業会
www.jema-net.or.jp/

6月21日 夏至の日は『冷蔵庫の日』

冷蔵庫の日 検索 reizoukonohi-cp.jp/

一般社団法人 日本電機工業会
冷蔵庫専門委員会 参画会社

アクア株式会社 シャープ株式会社 東芝ライフスタイル株式会社
パナソニック株式会社 日立アプライアンス株式会社 三菱電機株式会社 (五十音順)

2018年5月作成